

第3回 おかやま再生可能エネルギー導入・活用研修会 開催要領

1 日時

令和8年2月19日（木） 13：30～16：30

2 場所

岡山国際交流センター 3階研修室（岡山市北区奉還町2-2-1）

※オンラインによる参加も可

3 次第

（1）開会挨拶（13：30～13：35）

岡山県環境文化部脱炭素社会推進課 課長 宮原 雅史

（2）講演1「地方自治体のEV普及戦略について（仮題）」（13：35～14：35）

講師：NPO法人環境エネルギー政策研究所（ISEP） 所長 飯田 哲也 氏
(内容)

人口減少により公共交通やガソリンスタンドなどインフラが減少していく中、今後導入の増加が予想されている再エネを動力源とすることのできるEVを地方の住民の足とし、自治体が計画的に充電インフラを整備していくことによって都市設計・まちづくりを行うことの必要性について。

（3）講演2「小田原市（脱炭素先行地域）の取組について（仮題）」

（14：35～15：10）

講師：神奈川県小田原市環境部 ゼロカーボン推進課 副課長 小野 貴朗 氏
(内容)

令和2年度にも本研修会で、EVを活用した新たな地域交通モデル事業について講演をいただいており、その後の状況や、新たに市及び事業者による「小田原市EV宿場町コンソーシアム」を設立し、EV充電設備の設置・運営しながら、EVが日常的に走行する「EV宿場町」の取組について。

事業所、一般住宅、農地等に置かれた太陽光パネルが生み出した電力のうち、自らが消費できない余剰分を集めて市内の他の電力需要家に供給する「電力地産地消プラットフォーム」などの取組について。

次ページへ続く



(4) 講演3 「多主体連携と政策統合による地域脱炭素の実現に向けて（仮題）」

(15:20~16:20)

講師：法政大学社会学部教授／信州大学グリーン社会協創機構特任教授／
松本平ゼロカーボン・コンソーシアム運営委員長 茅野 恒秀 氏

(内容)

長野県内では、県ゼロカーボン戦略に基づく県民・事業者・自治体等の協働プラットフォーム「くらしふと信州」の他、松本市長と信州大学長が発起人となり、周辺5市村も参画する「松本平ゼロカーボン・コンソーシアム」など、産学官民金の連携による地域脱炭素の取組が各地で進んでいる。行政の枠を越えてさまざまな自治体や企業が参画する場が豊富に構築されている点は全国的に珍しく、脱炭素先行地域や重点対策加速化事業など国の交付金事業の採択にも効果を上げている取組について。

(5) 閉会